

新規採用研修を終えて



研修体験を研究に活かしたい

青木 玲二

(あおき れいじ)

品質開発部 畜産物機能開発研究室

畜産草地研究所に採用となって、4月から7月いっぱいまでの4ヶ月の間、研修を受けました。それまで畜産にほとんど縁がなかった私にとっては、とても新鮮な体験ばかりでした。初めは畜産物という食品

に興味をもち研修を受けていましたが、研修で現場を見学したり体験したりして、畜産に対して幅広く意識を持つことができました。認識不足な点がまだまだ多いですが、これからの研究生活の中で畜産業の抱える問題に対して、自分の意見を養っていきたいです。



バイオマス利用に頭を変える

横山 浩

(よこやま ひろし)

畜産環境部 資源化研究室

4月に新規採用されてから、早5ヶ月が経過しました。新人研修では、多くの方とお話させて頂き、有り難うございました。とくに牛の消化試験では、初めて牛をさわる事もあって、貴重な経験となりました。メタン発酵など、生物学的手法によるバイオマス利用技術の開発を行いたいと考えています。家畜糞尿や有機性廃棄物からエネルギー回収技術の開発

は、とても興味深い研究対象であると思っています。8月から研究室所属になって、まだ1ヶ月しか経過していませんが、徐々に実験を始めています。これまで学生のときに行っていた研究分野とは大きく異なり、考え方の大幅な変更を余儀なくされています。しかし、それが、新しい分野に入ったんだという、新鮮な気持ちにさせてくれます。畜産環境分野に貢献できる人間になりたいと考えていますので、皆様、ご指導を。



新人と呼ばれても・・・？

石田 三佳

(いしだ みつよし)

家畜生産管理部 家畜管理工学研究室

つくば市に来てから5ヶ月、思っていたより都会だというのが率直なところ。静岡県焼津市で生まれて高校まで過ごし、大学は宇都宮、その後西那須野と北上し続けていましたが、今回の採用で少しですが南下しました。

正直、新人と呼ばれても・・・？、と言う感じです。これまでは圃場機械を中心に研究を行ってききましたが、今後は飼養技術や環境に関する研究となります。今現在、何ができて何ができてないのか？、どのようなことが求められているのか？など、わからないことが多く皆さんにご迷惑をかけるかもしれませんが、よろしく願いいたします。



発酵リキッド飼料で大きく成長したい

大森 英之

(おおもり ひでゆき)

家畜生産管理部 飼料評価研究室

研修の間は、皆様には大変お世話になりました。4ヶ月間の研修を終え、8月より家畜生産管理部飼料評価研究室に配属されました。本研究室では食品残さや低・未利用資源の飼料化に関する研究を活発に行っており、ただいま私は豚の発酵リキッドフィーディングの機能性に関する実験に参加して、日々元

気のよい子豚たちと格闘しています。発酵リキッドフィーディングは高水分の食品残さの飼料利用に有効な技術であり、その機能性の解明に関する試験はこの技術の普及に重要な研究だと考えています。またこの試験の終了後は、未利用資源の飼料化に関する研究に参加する予定です。今はまだ自身の研究を行っていませんが、この間にテーマを見つけ、なるべく早く自身の研究を開始したいと考えています。皆様、今後ともよろしくお願いたします。



両国交流の発展のために！

朴 宗洙

(パク ジョンス)

畜産環境部 施設工学研究室

現在、栃木県的那須にある畜産環境部施設工学研究室で農業エネルギーと環境関連の研究を担当しております。採用から約1年程度過ぎている今は、毎日実験で忙しい日々が続いています。韓国人としては初めて畜産草地研究所の職員になり、重い責任を

感じています。

私が畜産草地研究所に入って目標としているのは、まず、「畜産農家がこれ以上糞尿処理で困ることはないようにする。」という事と、「畜産草地研究所の中で日本と韓国を結ぶ橋渡しの役割をする。」の二つです。

一人の人間として小さい力ではありますが、「やれば出来る！」という覚悟で頑張りますのでよろしくお願致します。



草と牛と

堤 道生

(つつみ みちお)

草地生態部 植生生態研究室

草と牛との出会いは8年前、大学の卒業研究でのことでした。それからすっかりその両方に魅了された私は、理学部から大学院農学研究科に進み、そ

の過程で持続可能な農業システムの構築に貢献したいと考えるようになりました。昨年10月に那須へ赴任してからは毎日のように草地と牛にふれあい、充実した日々を送っています。現在は、放牧利用転作田など、草地植生の構造について研究を行っています。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。



豚に足を踏まれた

安田 知子

(やすだ ともこ)

畜産環境部 環境浄化研究室

「豚に足を踏まれた！」「綿羊に打つ予防接種の針が指先に刺さった！」その度に研究所の皆様にご助けられ無事に4ヶ月の研修を終了できました。動物と

直に触れ合い、また、牧場体験ができたことは畜産草地研究所に入所した醍醐味の一つだと思います。研究所の歴史や畜産業の課題なども学びました。大学では土壤微生物の研究を行ってきました。学んできたことを生かし、畜産からの環境負荷低減に寄与する研究を頑張りたいと思います。これからもご指導よろしくお願いたします。



育種研究から畜産物研究へ

大江 美香

(おおえ みか)

品質開発部 食肉特性研究室

4ヶ月の研修を終え、8月から畜産草地研究所の食肉特性研究室に配属になりました。

大学では農学部で畜産学を専攻していましたが、主に家畜が肉になる前の段階の研究をしていました。今後は肉になった後の畜産食品が主な研究対象

となります。もともとは動物が好きで、それが高じて専攻を決めたのですが、実際に関わってみると農業は幅広く、奥が深いと感じるようになりました。研究を通して、農業に貢献していきたいと思っています。ここでは、研修の間も研究室に配属されてからも多くの方にお世話になり、ご指導に感謝しております。まだまだ未熟者ですが、今後もどうぞよろしくお願いいたします。



戻し堆肥で野菜作り

江波戸 宗大

(えばと むねひろ)

飼料生産管理部 作物栄養研究室

年齢的なものと昨年10月の採用ということもあり、フレッシュという感覚があまりないので、「新人」と言われると“こそばい”ですが、那須に来てからそろそろ1年経ち、ようやく仕事に慣れてきま

した。現在担当している課題は、いわゆる「戻し堆肥」で野菜を栽培しようという内容で、様々な野菜を作りまくっています。野菜作りは難しいですね。なかなか上手に作れなくておおわらわですが、畜産農家と耕種農家の架け橋になれるような仕事ができればと思っています。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



役立つ研究をしたい

日野 直子

(ひの なおこ)

家畜生産管理部 飼料調製研究室

長かった4ヶ月の研修を終え、草地研究センター(那須)の飼料調製研究室に配属された日野直子です。国の畜産業の役に立つ研究がしたいと思ってこの仕事につきました。研究室に来てから早1ヶ月が

過ぎようとしています。「一日も早く仕事に慣れ、いい仕事ができるようになりたいなあ」という気持ちだけが空回りしています。

日々の仕事は何もかもが新鮮で、といえば聞こえはいいのですが、室長、重点研究員、非常勤職員の方々に、一から十までお世話になっている毎日ですが、あせらず頑張ろうと思います。よろしくお願いいたします。



高品質飼料作物の開発をめざして

清 多佳子

(きよし たかこ)

飼料作物開発部 育種工学研究室

4ヶ月間にわたる新人研修も無事終わり、8月1日から研究室に配属になりました。いよいよ研究者としての一歩を踏み出そうとしています。研修中は、研究部や業務科の研修、専門研修での消化試験、牧場実習などを通し、家畜についてだけではなく、その乳や肉生産に影響する飼料の重要性につい

でも学ぶことができました。畜産や飼料についてはまだまだ勉強中ですが、研修中に感じた素朴な疑問を忘れずにこれからの研究に活かしていきたいと思っています。研究室では、牧草の耐病性という観点から収量はもちろん高品質の飼料作物の品種開発に役立つ研究に取り組んでいきます。日本の農業を支えていく、現場で役に立つ技術の基盤となる研究成果をあげられるよう頑張りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。